

INDEX

会長挨拶、学長代行挨拶	P2
東日本大震災に係る岩手大学の復興支援の取組	P3
同窓会連合の活動状況	P4~5
各同窓会の活動状況	P6~7
岩手大学の情報	P8



岩手大学同窓会連合会長挨拶

会長 桑島 博



まず、初めに、去る平成26年11月16日に堺学長が亡くなりました。訃報を知った際には大変驚きました。4月に学長に就任したばかりでしたので、これからというときに大変無念だったことと思います。謹んでご冥福をお祈りいたします。

さて、平成26年7月19日に7回目となる「卒業生・修了生と学長との懇談会」を大阪市で開催しました。初めての関西地区での開催でありましたが、64名の同窓生にご参加いただき、ありがとうございました。残念ながら、私は当日所用のため参加できませんでしたが、

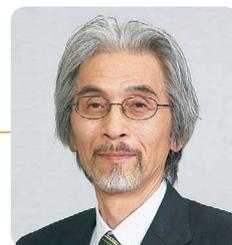
渡邊一祐会会長に代理を務めていただき、大変盛会だったとの報告を受けております。

なお、今回は東日本大震災の被災地でもあります福島での開催を予定しております。新聞等でご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、岩手大学では平成28年4月に向けて学部改組を検討しているとのことです。ぜひ、この機会に積極的にご参加いただき、岩手大学の応援者として質問やご意見をお願い致します。

今後共、同窓会連合活動へのご協力を切にお願い申し上げます。

地域の再生・創生を担う人材育成に向けて

岩手大学長代行 西谷泰昭



同窓生のみなさまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、みなさまご承知のことと存じますが、堺茂樹学長が11月16日に逝去されました。堺学長は、昨年4月の学長就任以来、全学改組を柱とした大学改革を精力的に推進されてきました。岩手大学にとって、その途上でリーダーを失ったことは大きな痛手ですが、教職員が一丸となってこの大学改革を進めて参る所存です。

改革の柱となる全学改組は、東日本大震災からの復興や地域の再生・創生を担う人材の

育成を、被災地にある国立大学としての大きな使命であると考え、そのために、地域創生専攻の設置、水産系教育プログラムの新設、分野横断型プログラムによる総合化、教員養成機能の強化、理学系分野の取り込みなどを実施するものです。グローバル化、少子化などの社会状況の変化に応じて、岩手大学は、信頼され期待される大学として地域活性化の中核的拠点であり続けなければなりません。みなさまには変わらぬご理解とご支援をお願いいたします。

東日本大震災に係る岩手大学の復興支援の取組

平成23年3月11日(金)に発生した東日本大震災後、本学では、三陸復興推進機構を立ち上げ、岩手県沿岸被災地の復興支援に取り組んでいます。今回は、平成26年度に取り組んだ主な活動について紹介します。

なお、本学では毎月「三陸復興推進レター」を発行しており、本学ホームページにも掲載しておりますので、ご覧いただきますようお願いいたします。〈URL <http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml>〉

● 三陸鉄道再開イベントに参加しました

平成26年4月5日の三陸鉄道南リアス線全線再開にあわせ、教育学部芸術文化課程美術・デザインコースの学生が中心となり、アートを通じた三陸鉄道と沿岸被災地の復興を目指しました。

全線開通日前日の4月4日は全線開通記念の貸し切り列車内にデコレーションを施し、復興のシンボルであるひまわりを装飾しました。開通当日は盛川橋梁と陸前赤崎駅付近でイベント列車に向かって手を振る「手ふり」を行い、地域の方々と一緒に、三陸鉄道再開を盛り上げました。



通過する列車に向かって手を振りました



車内を装飾する学生たち

● 低温低湿乾燥法による「潮騒の一夜干し」が発売されました

平成26年6月27日、岩手大学と久慈市の水産加工販売会社「北三陸天然市場」との共同研究で誕生した高品質な魚介乾製品「潮騒の一夜干し」の販売が開始されました。

潮騒の一夜干し(ホッケなど5種類)は、岩手大学と相互友好協定を締結している久慈市から派遣されている共同研究員が、(有)北三陸天然市場(久慈市)に岩手大学三陸水産研究センター長の三浦靖教授を紹介したことがきっかけで誕生した製品です。震災後に、主力商品である干物の高度化を目指したいとのご相談をお寄せいただき、三浦教授の食品加工技術を商品に応用する研究が開始されました。

従来の干物づくりで見られた、天日乾燥による脂質の酸化に伴う魚の生臭さの発生や高塩分濃度などの課題を、乾燥前の浸漬液にローズマリー抽出成分を加えることで脂質の酸化を抑制し、専用の乾燥設備により低温下で段階的に湿度を下げる「低温低湿乾燥法」を用いることで高塩分でも消費期限を延ばすことに成功しました。

6月26日に行われた発売記念記者会見では、西谷泰昭岩手大学理事・副学長が「水産業の復興なくして三陸復興はあり得ない。今回のような成功事例を他地域でも積み重ねていくことで復興支援活動を進めていきたい」とコメントしました。

「潮騒の一夜干し」は、北三陸天然市場(ネットショップ:<http://3ri9.shop-pro.jp/>)のほか、岩手県内のイオン系列店などで販売中です。干物の生臭さや塩分が気になっていた方も是非ご賞味ください。

岩手大学は、今後も「水産業の復興」や「なりわいの復興」を目指した支援活動に取り組んでまいります。



記者会見の様子

● 東日本大震災被災学生募金のご報告とお願い

岩手大学では、東日本大震災で被災した学生への支援を目的とした東日本大震災被災学生募金を平成23年3月から実施しています。これまでに、全国の767名様と51の団体様から48,592,295円(平成27年1月23日現在)が寄せられ、実家が損壊した学生や、家計を支えていたご家族を亡くした学生、福島原子力発電所事故の影響を受けた学生など371名に対し修学支援金や奨学金を渡すことができました。同窓生の皆様には、各学部同窓会を通じ、多くの義援金をいただいております。改めて御礼申し上げます。

岩手大学では今後も被災した学生に対し、経済的支援を行ってまいります。将来ある学生たちが困難な事態に怯むことなく、果敢に立ち向かっていくことができるよう、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金の方法や詳細については、下記URLをご覧ください。

<http://www.iwate-u.ac.jp/attention/shienbokin.shtml>

【募金に関するお問い合わせ】 総務広報課 / 電話: 019-621-6006 メール: bokin@iwate-u.ac.jp

平成25年度事業報告について

1. 理事会の開催

- 第9回：平成25年5月13日（月）
 議題1. 平成24年度事業報告（案）について
 2. 平成24年度決算（案）について
 3. 平成25年度事業計画（案）について
 4. 平成25年度予算（案）について
 5. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第6回）について
 6. 次期役員について
 7. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第7回）開催場所についてなど
 第10回：平成26年3月4日（火）
 議題1. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第7回）について
 2. 来年度以降の卒業生・修了生と学長との懇談会の開催についてなど

2. 運営委員会の開催

計2回開催（平成25年4月25日（木）、9月25日（水））

3. 「卒業生・修了生と学長との懇談会（第6回）」の開催

大学と共に主催し、懇談会及び懇親交流会を開催した。
 【内容】大学側から大学の現状と取組状況の紹介、意見交換 など
 日時：平成25年7月13日（土） 15時～
 開催場所：ホテルメトロポリタン盛岡本館（岩手県盛岡市）
 参加者：115名

4. 会報の発行

平成25年12月 第5号発行
 （掲載内容）：岩手大学の震災復興への取組状況、平成24年度事業報告、卒業生・修了生と学長との懇談会（第6回）の報告、各同窓会の情報、大学の情報 など

5. 在学生への支援

大学で実施している「国際ボランティア事業等参加者支援事業」及び「海外留学派遣支援事業」の2事業の支援を行った。（金銭補助）
 ※参考◎H25年度国際ボランティア等参加者支援事業（申請者：13名、採択者：10名）
 ◎H25年度海外留学派遣支援事業（採択者：9名）

6. ガンダイニングへの協賛

岩手大学紹介番組「ガンダイニング」（IBC岩手放送）への協賛を行った。

【主な放送内容】
 震災復興の取組、運動部の活躍、大学行事の紹介 など

【放送日時等】
 平成25年10月1日（火）～平成25年12月24日（火）
 毎週火曜日／18：55～（3分間） 計13回放送
 （同日再放送 24：53～（3分間））
 平成26年1月26日（日） 特別版（1時間）放送

7. 東日本大震災に係る義援金の募集

東日本大震災で被災した岩手大学生を支援するため、義援金の募集を継続して行った。

※集められた義援金については、大学で行っている「東北地方太平洋沖地震岩手大学被災学生支援募金」に寄付され、在学生の修学支援資金として使用されている。

8. 開学記念行事への支援

同窓生に対し、岩手大学開学記念行事（平成25年6月1日（土））への参加を呼びかけた。

9. 卒業式・修了式への支援

卒業式・修了式（平成26年3月24日（月））に祝い花を贈った。

平成26年度事業計画と実施状況について

1. 理事会の開催

- 第11回：平成26年5月26日（月）
 議題1. 平成25年度事業報告（案）について
 2. 平成25年度決算（案）について
 3. 平成26年度事業計画（案）について
 4. 平成26年度予算（案）について
 5. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第7回）について
 6. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第8回）実施についてなど
 第12回：平成26年12月10日（水）
 議題1. 卒業生・修了生と学長との懇談会（第8回）の開催についてなど

2. 運営委員会の開催

計2回開催（平成26年5月15日（木）、11月10日（月））

3. 「卒業生・修了生と学長との懇談会（第7回）」の開催

大学と共に主催し、懇談会及び懇親交流会を開催した。
 【内容】大学側から大学の現状と取組状況の紹介、意見交換 など
 日時：平成26年7月19日（土） 15時～
 開催場所：KKRホテル大阪（大阪市）
 参加者：64名

4. 会報の発行

会報第6号を発行する。

5. 在学生への支援

「国際ボランティア事業等参加者支援事業」及び「海外留学派遣支援事業」を引き続き支援した。

6. ガンダイニングへの協賛

岩手大学紹介番組「ガンダイニング」（IBC岩手放送）への協賛を引き続き実施する。

7. 東日本大震災に係る義援金の募集

東日本大震災で被災した岩手大学生を支援するため、義援金の募集を継続する。

8. 開学記念行事への支援

5月31日（土）に開催する岩手大学開学記念行事への支援を行う。

9. 卒業式・修了式への支援

卒業式・修了式に祝い花を贈る。

《平成25年度 岩手大学同窓会連合 決算》

【収入の部】

（単位：円）

項目	予算額	決算額	差引額	備考
会費収入	2,000,000	2,000,000	0	4同窓会×500,000円
前年度の繰越金	2,146,075	2,146,075	0	
その他収入	380	478	△98	利息
計	4,146,455	4,146,553	△98	

【支出の部】

（単位：円）

項目	予算額	決算額	残 額	備考
事業費	2,100,000	1,555,186	544,814	①卒業生・修了生と学長との懇談会への協力 641,616（旅費、八方十代、会場費等補助） ②会報の発行 503,570（印刷費、発送補助費） ③在学生への支援 200,000（学生支援寄附金） ④ガンダイニングの協賛費 157,500 ⑤卒業式・修了式への祝い花 52,500
会長活動経費	100,000	22,782	77,218	
会議費	6,000	5,020	980	（理事会用お茶代）
事務費	23,000	4,095	18,905	（振込手数料）
予備費	1,917,455	0	1,917,455	
計	4,146,455	1,587,083	2,559,372	

収入決算額－支出決算額＝繰越額 4,146,553－1,587,083＝2,559,470

卒業生・修了生と学長との懇談会（第7回）の開催

平成 26 年 7 月 19 日（土）、大阪市内の KKR ホテル大阪を会場に「卒業生・修了生と学長との懇談会（第7回）」が開催されました。この懇談会は、平成 20 年度から毎年実施されており、今回は初めての関西地区での開催となり、64 名の参加がありました。

懇談会では、まず堺学長から、現在の国立大学は国民から変革を求められていることから「外からの目線で、今の大学に率直な意見をいただきたい。」との挨拶がありました。また、渡邊工学部一祐会会長が同窓会連合会長代理として、被災学生への義援金に対するお礼と継続についてのお願いがあり、「皆様のご意見をいただきながら、設立の趣旨に沿って各同窓会と岩手大学の発展に寄与し、地域社会に貢献できるように努力していきたい。」と挨拶がありました。

続いて、西谷理事（総務・研究・復興担当）から、本学の現状と東日本大震災からの復興への取組状況について、丸山理事（教育・学生担当）から、文部科学省の地（知）の拠点整備事業に採択された「地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト」について、さらに各学部長等から、最近の学部の取組等について説明がありました。

その後の質疑応答・意見交換では、現在の入学者の状況、環境への取り組み、語学力の向上、留学支援体制、医学部の設置要望など、幅広い様々な質問および意見が出され、参加者の母校への関心の高さを窺い知ることができました。

懇談会の最後には、各同窓会長から挨拶があり、最近の活動についての報告などがありました。

懇談会終了後に行われた懇親交流会では、学部年代に関わらず親睦を深め合い、最後は卒業生全員で学生歌を歌い、盛会のうちに終了しました。

次回は平成27年7月25日（土）に福島市（ホテル福島グリーンパレスを予定）を会場に開催する予定ですので、ぜひご参加ください。

詳細については決まり次第ホームページ (<http://alumni.iwate-u.ac.jp/>) に掲載いたします。



懇談会の様子①



懇談会の様子②



懇親交流会の様子①



懇親交流会の様子②

ガンダイニングへの協賛について

岩手大学同窓会連合では、岩手大学の様々な活動やあまり知られていない魅力を卒業生や地域の皆様を知ってもらい、より親しまれる大学になれるよう岩手大学を応援するために、岩大を紹介するテレビ番組「ガンダイニング」の協賛を行っています。

この番組は、大学内の様々な取組や研究、学生の姿を紹介するミニバラエティ番組で、今年で第 10 回を数えます。アシスタントナビゲーターを務めるお馴染みの岩手大学イメージキャラクター「がんちゃん」をはじめ、今年度も現役の岩手大学生がリポーターを務め、大学の“いま”を元気に伝えています。

【平成26年度放送日程】

IBC 岩手放送（TBS 系列）

平成 26 年 10 月 7 日～平成 26 年 12 月 30 日

毎週火曜日／18:55～ 計 13 回



※岩手大学ホームページ（<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/gandaining.shtml>）から今年度放送分をご覧いただけます。



リポーターの藤田さん（左）と上野さん（右）

大学と同窓生による懇談会（札幌市）の開催

平成 26 年 11 月 29 日（土）、札幌市内において岩手大学講演会及び個別相談会を開催することから、各学部同窓会協力の下、大学と同窓生による懇談会が開催されました。七友会を除き、各学部同窓会札幌・北海道支部の役員等の代表 10 名が参加いたしました。

懇談会では、まず八代副学長（地域連携・広報担当）から、今回の講演会及び個別相談会開催の趣旨について説明があり、「北海道での知名度を上げること、志願者を増やしたいと考えていることから、同窓会にもご協力をお願いしたい。」との挨拶がありました。

その後、各同窓会支部の活動状況が報告され、大学が平成 28 年 4 月に予定している学部改組に関する意見交換を行いました。短い時間ではありましたが有意義な懇談会となりました。



懇談会の様子

七友会

人文社会科学部 同窓会

Shichiyukai



人文社会科学部進路選択セミナー

《活動報告》

今年度も現役学生への就職支援活動、同窓会会誌『七友会だより』の発行、評議会の開催と活動を進めて参りました。七友会では5年刻みで同窓会を開いております。3年前の震災直後には「創立30周年同窓会」(震災復興祈念同窓会として開催)が行われました。現在、岩手の次に会員数の多い東京での「35周年記念同窓会」の開催が検討されているところです。

◆就職活動支援

- ① 進路選択セミナー(人文社会科学部1~3年生対象):人文社会科学部の学生に就職を含め将来の進路を考える際に選択肢を広げてもらうことを目的に学部の就職委員会と連携して開催しています。今年度も第1回目の進路選択セミナーが、平成26年6月13日(金)に学生センターB棟1階 GB11教室で行われました。第一部「人社OB・OG が業種・職種の実態や学生時代のエピソードを語る」では、各講師から経歴や仕事について紹介してもらい、これまでの経験を踏まえ、それぞれの職業観や仕事上で求められることなどをお話いただきました。第二部では、講師、オブザーバーを囲み自由な雰囲気の中で質疑応答が行われました。今回の講師は、岩本太郎氏(フリーライター)、小川美穂子氏(臨床心理士)、小松山修氏(元外資系金融機関他勤務)の3名、オブザーバーとして、足立慎悟氏、佐藤泰氏、吉田真二氏の他、人文社会科学部教員浅沼道成教授(就職委員長)。人文社会科学部の1年生から3年生まで約70名の学生が参加して、熱心に耳を傾けていました。
- ② 学部就職ガイダンス(人文社会科学部3年次対象、人文社会科学部教育後援会と共催):今年度は平成26年12月9日(火)に開催

されました。第一部は人文社会科学部OBの落安昭三氏(株式会社盛信サービス代表取締役:学部1期生)の講話『これからの就職活動へ向けて』(G1大教室)、第二部では内定を獲得した現4年生に参加してもらい、パーティ形式で就職体験のスピーチと交流を行いました。例年、就職活動へ向けて3年生の志気を高める場となっています。

◆人文社会科学部・学術講演会(奨学寄附金による開催支援)

今年度は下記の学術講演が開催されました。

演題:「日本経済と原発・再エネ・節電所」

関西学院大学総合政策学部教授 朴勝俊氏

(平成26年10月28日(火)学生センターG19講義室)

- ◆七友会ホームページ(<http://jinsya.com>):七友会HPは随時更新しています。最新の活動状況、過去のイベント等、七友会の詳細な情報が閲覧可能です。同窓生の住所、連絡先等の登録、データ更新も七友会HP上で行えます。どうぞご利用下さい。

《その他の活動》

同窓会報『七友会だより』の発行[第38号(平成26年2月)、第39号(平成26年9月)]/平成26年度評議員会の開催(6月14日(土):アイーナ(いわて県民情報交流センター)会議室807)



平成26年度評議員会

一祐会

工学部 同窓会

Ichiyukai

●就職活動支援

平成25年12月に予定した一祐会主催の企業合同説明会は、工学部5号館改修工事のため、一祐会館の使用が制限されることとなり残念ながら開催を見送ることとなりました。代わりに各学科におけるOB講演会の活性化を図ることとし、3件の講演会を共催することで、昨年度の就職活動支援と致しました。

●会誌「北社」62号の発行

平成26年3月1日会誌「北社」16,800部発行。表紙は3号館の北側に新設された「ものづくり研究棟」です。詳しくは、工学部75周年を迎えるに当たり工学部キャンパスの近況を西谷工学部長にご紹介載しましたのでこちらをご覧ください。また、東日本大震災に対する岩手大学としての被災復興対応について、三陸復興促進機構釜石の田村直司氏より詳細なご寄稿をいただきました。

●平成26年度一祐会定期総会の開催

平成26年度一祐会定期総会は、工学部創立75周年記念式典・記念講演会および記念祝賀会に併せて、平成26年5月23日(金)11:00-12:00、いわて県民情報交流センター(アイーナ)812研修室において開催しました(集合写真)。定例の議題に加えて、「一祐会の個人情報保護方針(案)」が審議され承認されました。また、「議案(5)その他」として、千葉事務局長より同窓会の法人化についての審議結果が報告され、法人化は現状の一祐会の活動内容では大きなメリットがないことが確認されました。午後から

の工学部創立75周年記念式典においては、一祐会からのお祝い金として、渡邊会長より300万円が贈呈されました(写真)。これは一祐会館の内装改修費に充てるためのものです。



お祝い贈呈



一祐会 定期総会

●一祐会名簿検討委員会の設置と

「一祐会の個人情報の取り扱い要綱(案)」の検討

昨年度3回の名簿検討委員会を開催し名簿発行の是非について検討する中で、「個人情報の保護に関する法律」を遵守するための「一祐会の個人情報取り扱い要綱」策定が名簿発行に向けての急務であるとし、次年度に引き継ぎ、さらに検討を重ねることとしました。

北桐会

教育学部 同窓会

Hokutoukai

平成26年度の北桐会は、6月29日に評議委員会を開催し、年度計画が承認され、常任理事会を中心に会務を進めて参りました。

教育学部・旧学芸学部はこれまで約1万9千人以上の卒業生・修了生を世に送り出していますが、その多くの方々には教員として県内外の学校教育や生涯教育等に関わり、更には教員以外の幅広い職種においてもおおいに活躍されています。

ご承知の通り、昨年創立60周年を迎え、北桐会は新たな活動を展開し始めました。

今回はその中から植樹事業についてご紹介いたします。この事業は昭和60年5月2日契約し、所在地は盛岡市玉山区薮川外山第一国有林、面積5ha、存続期間50年間（現在30年経過）、植栽樹種及び本数はカラマツ12,300本です。岩洞湖畔の東側国道455号線の小石川バス停留所からおよそ林道を3キロ分け入ったところにあり、現在胸高18センチほどのカラマツ林の景観を成しています。同窓会事務局は毎年春と秋に視察に行き、植樹の生育と導入道路、境界線、雪害や鹿などによる被害の調査を行っております。平成26年6月7日に行いました視察は、新妻教育学部長と浅沼事務長にも同行いただき、改めて事業の概要を見ていただきました。

今年度の学長と卒業生・修了生との懇談会は大阪で開催され、近畿地方の会員の方々に集まっていただき、参加された会員の方々からは支部設立のお話もでて大変盛り上がり、楽しい会を経験いたしました。北桐会の支部は現在16支部あり、近畿地

方の支部設立は会としても期待し続けてきた経緯もあることから、新支部の誕生を心から期待申し上げます。

会員の皆様にご心配いただいております岩手大学の改革は最終的な報告は未だ出されていませんが、現在決定された内容のみの報告をさせていただき、最終報告は評議員会等でお知らせできればと思っております。決定された内容は次の通りです。

教育学部の改革は文部科学省によるミッションの再定義を基に、大きな変革を迫られることになりました。国策として教員養成学部には、教員養成の強化をする一方、新課程（0免課程）の廃止が指示され、生涯教育課程、芸術文化課程を合わせた90名の募集定員が削減されることになり、教育学部の募集定員は160名となります。大学院は教育学研究科の廃止を前提に教職大学院が平成28年度の設置に向けて準備されることになりました。同窓会としましても、学生定員の削減を踏まえ、事業の見直しと予算面での検討を急ぐ必要があります。新教育学部は教員への就職率を上げることが求められ、同窓会としても協力体制をより強くしていくこととなり、会員の皆様のご支援もより必要になりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。本年も北桐54号を発行し、会員の皆様にお届けいたしますので、あわせてそちらもご覧いただければ幸いです。



植樹事業視察の様子

北水会

農学部 同窓会

Hokusuikai

《この一年 トピックス》

●最新会員名簿の定期提供

当会では、会員名簿をほぼ10年単位で発行してきましたが、個人情報保護の観点や利用頻度が少ないといったことから、母校創立100周年記念（平成14年）を最後に、発行していません。活動の基になる会員情報が手元になく活動しにくい、という声も寄せられており、実際、同窓会としての活動が低調となってきているのが実情です。そこで、平成25年から、新卒業生の進路情報を盛り込んだ、最新の会員名簿を定期的に各支部に提供するようにしました。新卒業生の進路情報は、以前は各研究室にお願いし、個別に入手しておりましたが、同窓会連合会の設立により、一元的に大学担当局から入手することが出来るようになり、大変助かっています。

支部活動の活性化との思いで定期提供を始めましたが、最近は活動が途絶えていたいくつかの支部から、集まりを持つようになった、などの情報が寄せられてきています。

●「北水の池」が改修されました

「北水の池」が平成26年秋、8年ぶりに泥上げ改修されました。この池は、かつて木造の校舎が建ち並んでいた跡地に、農学部の研究成果「破碎転圧工法」により昭和55年に造成されたものです。池の北側に建つ同窓会「北水会」館、にちなみ「北水の池」と名づけられました。造成から34年も経て、今では農学部キャンパス内植物園の中心的存在となっています。市民の方々など、植物園を訪れる多く人たちの憩いの場所となっています。

長年経過すると、水生植物残渣や浮遊物が堆積し汚泥化するので、定期的に堆積物を除去し清掃する必要から、平成18年以降の改修が行われました。

小動物の捕獲、保護から始まり、スレイン間引き、汚泥吸引運搬処理、洗浄など、半月近くも要した大掛かりな工事でした。

きれいに生まれ変わった「北水の池」に浮かぶ、スレインの花の咲き競う季節が待ち焦がれます。



改修工事中 平成26年10月9日撮影



湛水中 平成26年10月20日撮影

ソチ冬季パラリンピック2冠 岩大OB狩野亮選手が凱旋

平成26年3月に開催されたソチ冬季パラリンピックに出場し、アルペンスキー男子座位の滑降とスーパー大回転の2種目で金メダルを獲得した本学卒業生の狩野亮選手が、5月31日に開催された岩手大学開学記念行事で特別講演を行いました。

講演では、小学3年生の時に交通事故で下半身不随になってからチェアスキーに出会い、3大会連続でパラリンピックに出場するまでの出来事に加え、今後の障がい者スポーツの普及に向けた思いが語られました。

講演後は、サインや握手を求める多数の来場者に囲まれ、会場は大いに盛り上がりました。

狩野 亮 (かのう あきら) マルハン所属
 昭和61年3月14日生 北海道網走市出身
 平成20年 岩手大学工学部福祉システム工学科卒業
 平成26年 紫綬褒章受章



狩野さん パラリンピックで獲得した金メダルを手にして

「地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト」 被災地学修(地域学修)を実施 1,100名を越える1年生が被災地を訪問

岩手大学では今年度から、県内の多様な地域課題を解決する実践的な人材育成を目指す「地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト」を本格実施しています。

このプロジェクトは、被災地学修、岩手の歴史や文化の科目、地域課題を解決する実践科目、県内企業・自治体へのインターンシップなど、岩手に関する科目を全ての学生に提供し、地域の課題を解決できる人材として、地元への定着を促進することを目的としています。



旧大槌町役場前での被災地学修の様子

特に被災地学修においては、被災地の今を知り、現場の生の声に耳を傾け、岩手の復興のために自分には今何ができるのか、また将来何をすべきなのか、そのためには大学で何を学び、何を体験すればいいかを改めて深く考えてもらい、それを大学での学びの糧としてほしいと願っています。

被災地学修1年目の今年度は、4月から8月にかけて、1,100名を越える学生が参加しました。学科やゼミの33グループで被災地を訪問し、自治体、企業、NPOの皆様から震災による被害状況や復興の様子、またその地域の産業・文化・まちづくりの現状などについて話を聴き、討論などを行いました。

岩手大学は、「地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクト」を通して、地域の発展に貢献する拠点となるよう、全力を挙げて取り組んでまいります。

学生の課外活動の成績

全国大会での優勝や、世界大会への出場を果たした学生をご紹介します。

【陸上競技部】高橋英輝さん(教育学部4年)

- ◎ワールドカップ競歩(平成26年5月)
男子20km **9位**(1時間20分4秒)
- ◎第17回アジア競技大会(韓国・仁川)(平成26年9月)
男子20キロ競歩 **7位**(1時間24分4秒)
- ◎第83回日本学生陸上競技対校選手権大会(平成26年9月)
1万m競歩 **優勝**(39分44秒78(大会新記録))
- ◎第5回長崎陸協競歩大会(H26.12.14)
男子一般1万m競歩 **優勝**(38分18秒51(日本新記録))

【陸上競技部】土橋智花さん(教育学部1年)

- ◎世界ジュニア選手権(7月24日)
女子200m **準決勝進出**(24秒08)
- 女子400mリレー第3走 **6位**

- ◎第83回日本学生陸上競技対校選手権大会
女子200m **優勝**(24秒12(追い風参考))

【弓道部】松下佑也さん(教育学部2年)

- ◎第62回全日本学生弓道選手権大会(平成26年8月)
男子個人 **優勝**(11射連続的中)

【スケート同好会】佐藤洸彬さん(教育学部1年)

- ◎ジュニアグランプリシリーズ第1戦 フランス大会出場(平成26年8月)
男子シングルス **第8位**



陸上競技部
日本学生陸上競技対校選手権大会
優勝

左から高橋さん、土橋さん